

## J 生涯学習施設の実態・課題

### ■ 施設概要

市では、生涯学習施設を2施設保有しています。生涯学習センターは公民館としての役割も有しています。

#### 〔施設一覧〕

地域	複合	施設名	面積 (㎡)	築年	複合施設等
町田中心		町田市生涯学習センター (まちだ中央公民館)	2,677	2002	
忠生		生涯学習センター 陶芸スタジオ	356	1993	

### ■ 実態と課題

- 〔配置〕 ・ 生涯学習センターの配置は極めて好立地である。
- 〔建物〕 ・ 陶芸スタジオの耐用年数が近づいている。
- 〔機能〕 ・ 生涯学習センターは生涯学習事業の実施以外は集会・学習施設として利用されている。
  - ・ 陶芸スタジオは市民大学の陶芸講座専用の施設となっている。また、講座に使用しない部屋がある。
- 〔利用〕 ・ 生涯学習センターはいずれの部屋も利用率が高く、一部の部屋を除き夜間利用も多い。
- 〔運営〕 ・ 2施設ともに市の直営である。
- 〔コスト〕 ・ 生涯学習センターの年間の行政コストは約3.4億円である。

## 4つの視点から

---

### 行政関与の必要性

- ・ 「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」では生涯学習施設（教育機関）を設置できるとされており、条例に基づき設置している。

### 設置目的との整合性

- ・ 施設立地が良いため、学習活動のみならず多様な用途に利用されており、整合していない側面がある。

### 利用状況の妥当性

- ・ 生涯学習センターは立地がよく施設全体の利用率が高い。
- ・ 陶芸スタジオは市民大学講座受講生とその卒業生に利用が限られているうえ、週に1～2回程度しか利用されていない。

### 施設の代替性

- ・ 市民の施設利用という点では、ホール、会議室等は他の公共施設でも保有している。
- ・ 生涯学習事業は特定の施設でなくてもアウトリーチによる実施が可能である。
- ・ 民間が運営している陶芸教室は市内・市外にもある。

### 〔現状・課題のまとめ〕

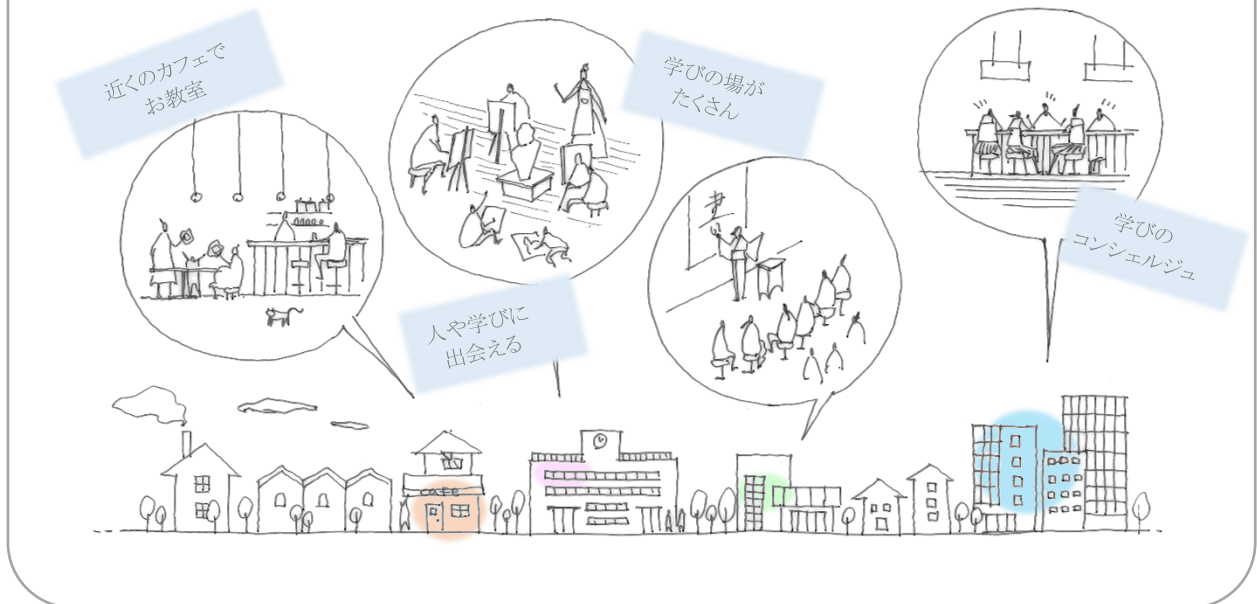
生涯学習センターは、人々が集い・学び・交流する社会教育・生涯学習の拠点です。学習活動を総合的に支援するため様々な事業を実施するとともに、生涯学習に関わる情報発信を行っています。また、学習施設として多く活用されているほか集会機能としての活用もされていることから施設全体の利用率が非常に高い状況です。その一方、より身近な地域で学習を行うための事業を展開していくことや、学習を通して得た知識や技能を地域で活かす仕組みづくりが課題です。陶芸スタジオは利用者が限定されており、陶芸の活動以外の活用は行っておらずサービスそのもののあり方も見直す必要があります。

## ▶ J 生涯学習施設の今後の方向性

### ■ 再編後のイメージ例

☆≡

- 地域への事業展開により、これまで以上に身近な場所で生涯学習に触れることができます。
- 生涯学習センターをより多機能に活用することで、中心市街地の活動拠点になります。



### ■ 今後の方向性

複・多

連携

活用

民

施設の**複合化・多機能化**を図ることや特定用途に限定された施設の見直しにより**建物の総量を圧縮する**一方、既存施設の活用をはじめとした**地域での事業展開**により、**身近な場所で生涯学習に触れられるようになる**他、市民が学習を通して得た**知識や技能を地域で活かす**ことで、**地域の活力が生まれる**。

- ✓ 地域での事業展開を強化し実施する。
- ✓ 生涯学習センターは生涯学習機能だけでなく、より多機能に活用できる施設として再編を検討する。
- ✓ 市民大学の陶芸講座は終了を検討する。

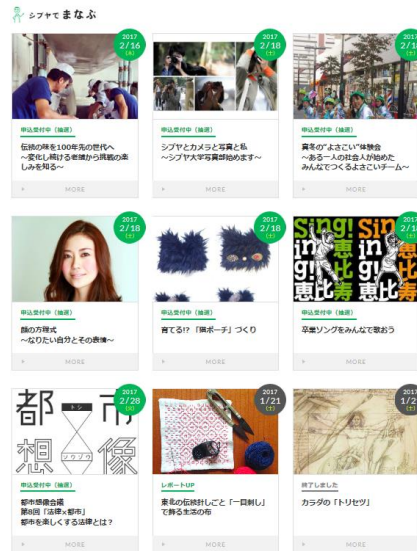
～こんな取り組みも始まっています～

### シブヤ大学

東京の渋谷の街の公共施設、学校、カフェなど様々な場所をキャンパスとして、誰もが無料で学んだり、参加者同士のゼミ・サークル活動を行ったりすることをコーディネートする活動がNPO法人により実施されています。企業・自治体と連携しながら、さまざまな人が参加できる多様なプログラムを提供しています。



渋谷のさまざまな場所で・・・



さまざまなプログラムが行われています